

令和5年度の発掘調査で新たに発見された恐竜化石3点について

1. 概要

徳島県立博物館では、令和5年10月～12月に福井県立恐竜博物館や福井県立大学恐竜学研究所、県内の化石愛好家、阿波勝浦井戸端塾などの協力を得て、徳島県勝浦町の恐竜化石含有層（ボーンベッド）の発掘調査を実施した結果、316点の脊椎動物化石を発見し、うち3点は、恐竜化石であることが判明した。

2. 発見された恐竜化石

(1) 獣脚類の歯化石（2点）

- ① 県内で4点目、5点目の発見となる獣脚類の歯化石。
- ② いずれも、獣脚類の歯によく見られる特徴である鋸歯（細かいギザギザの刻み）が確認できる。
- ③ うち1点は欠けが無く、歯冠全体が残されている。全体的に細長く、強いカーブを描いているのが特徴で、令和元年に発見された獣脚類の歯化石とはプロポーションが大きく異なる。



長さ 17.5 mm、幅 4.5 mm
(令和5年12月8日採集)



長さ 10 mm、幅 2.5 mm
(令和5年12月10日採集)



獣脚類の生体復元画（画：山本 匠）

(2) 竜脚類の歯化石（1点）

- ① 県内で11点目の発見となる竜脚類の歯化石。
- ② これまでに発見された竜脚類の歯と同様、ティタノサウルス形類の歯と思われる。
- ③ 竜脚類ティタノサウルス形類は全長10mを超える大型の植物食恐竜のグループ。



長さ 21.5 mm、幅 7.5 mm
(令和5年11月12日採集)



ティタノサウルス形類の生体復元画
(画：山本 匠)

3. 一般公開

日時 令和6年3月16日（土）から5月12日（日）まで

場所 徳島県立博物館 常設展 徳島恐竜コレクションコーナー